

# 1月14日 曾田豊二文庫オープン



上：玄関前で曾田キミヨ夫人(中央)らが開設を祝いテープカット  
下：本棚に整理された曾田の蔵書。壮大な知の世界が広がる

福岡大学耳鼻咽喉科初代教授で元同大病院院長、日本耳鼻咽喉科学会理事長を務め、退職後は名誉教授仲間と語り、市民対象に無料健康相談「養生相談室」を開いた曾田豊二医師(1925-2017)が亡くなって2年。3万冊に及ぶ蔵書を収めた曾田豊二文庫が1月14日、ゆかりの地に開設された。後進育成、研究助成を進めるために設立された一般財団法人曾田豊二記念財団も活動を始め、開設を支援した。医療の社会貢献を考え、種を蒔いてきた曾田の遺志が関係者によって芽吹き始めている。(医療ジャーナリスト 藤野博志)

## 福岡市西区生の松原のゆかりの地に蔵書3万冊 夫人、弟子らが祝う

曾田三回忌命日翌日の1月14日、福岡市西区生の松原三丁目、医療法人西福岡病院(安藤文英理事長)隣接地に、曾田豊二文庫が開設され、記念財団、九州大学・福岡大学関係者、近隣住民ら約60人の招待客らがオープンを祝った。完成したのは木造二階建て延べ80平方メートルの開放式書庫、遺品展示室、事務室、テラスから成り、曾田宅の書庫に保管されていた蔵書を収蔵する。玄関先などには旧曾田邸の赤煉瓦扉の一部、石の門柱二対、百日紅、ロウバイ、カリン、ツバキが移され、住時を偲ぼせる。



医療法人西福岡病院理事長 安藤文英氏

開設式は西福岡病院内で行われた。安藤理事長が開設の経緯を述べ、「先生はアーカイブ(記録・資料の大規模コレクション)の重要性を説かれていた。蔵書の行方を意識されていたのかも知れない。」と目を輝かせた。



友情の地に文庫が開設。在りし日の曾田と安藤精彌・前西福岡病院会長(左から)

同病院は曾田の学友、安藤精彌(故人)が開業し、曾田も福岡大学教授を退職後20年間奉職し、晩年何度も入院加療したゆかりの地。安藤精彌は曾田が養生相談室を始める際も、福岡市・天神の系列クリニックの一室を提供するなど、二人は固い絆で結ばれていた。精彌の長男・文英理事長が曾田の死後、キミヨ夫人から「主人の蔵書を収める『曾田豊二文庫』を作りたい」と相談されて構想を練り、無料公開している。

## 歴代の識者を見守った赤坂旧宅 後世に捧げる、知の探求心

曾田の旧宅は福岡市中央区赤坂一丁目にあった。黒田藩の旧武家屋敷で、西南学院の創立者C.K.ドージャー、日本耳鼻咽喉科学の先駆者、九州大学初代耳鼻咽喉科教授・久保猪之吉、その弟子で父の曾田共助が住居とした後、豊二が住んだ。赤煉瓦扉と巨木の屋敷だった。

没後、多くの遺産と蔵書と資料の整理には、弟子などの医療関係者が当たってきた。資料の中には、久保猪之吉のものや、柳田國男、柳原白蓮、松本清張などの文化

的交流を示す貴重なものが残されていた。蔵書は宇宙科学、基礎数学、哲学、歴史、政治、文学から「ゴルゴ13」などの漫画まで、ネイチャーなどの雑誌、全集、単行本、新書と多方面に及ぶ。一見無造作に収められた書棚を見た折田教授は「旧制高校時代の知識人の書齋と指す。文庫内で蔵書の陳列に当たった田中文庫長は「先生はまさに知の探求者。文庫は未来に開かれた曾田ライブラリー。ぜひ若い人に読んでいただきたい」と話す。

# 曾田医師の遺徳を社会に還元

## 一般財団法人曾田豊二記念財団 設立



## 福岡大学名誉教授 故曾田豊二氏

- 1925年 2月24日誕生
- 1954年 九州大学医学部卒業
- 1964年 医学博士の学位を受く
- 1964-72年 九州大学助教授
- 1965年 西ドイツ、フライブルク大学に出張
- 1968-94年 九州芸術工科大学講師を兼任(聴覚生理担当)
- 1972-95年 福岡大学医学部耳鼻咽喉科学初代教授。23年間在職
- 1975-79年 第2代福岡大学病院院長
- 1976-92年 (この間) 日本オージオロジー学会、日本臨床耳科学会、日本基礎耳科学会、日本音声言語医学会、日本頭頸部外科学会の会長を歴任
- 1988-92年 日本耳鼻咽喉科学会理事長
- 1993-2003年 国際耳鼻咽喉科学振興会理事長
- 1995年 福岡大学教授を退職
- 1995-2017年 名誉教授。西福岡病院耳鼻咽喉科 養生相談室開設
- 2002年 養生相談室開設
- 2017年 1月13日逝去

## 一般財団法人 曾田豊二記念財団

- この法人は耳鼻咽喉科及び関連分野の医療・学術の発展を目指すことを目的とし、次の事業を行う。
- 耳鼻咽喉科及び関連分野の研究者に対する奨学金の支給
  - 同分野の研究に対する助成又は顕彰
  - 同分野の学会や大学に対する助成又は寄付
  - 曾田豊二、曾田共助、久保猪之吉に関する資料の保管、分析、展示等に関することに対する助成
  - その他前各号に関連する事業

### 代表理事挨拶



一般財団法人 曾田豊二記念財団 代表理事 白石君男氏

## 若手研究者育成や 研究推進を支援

福岡大学名誉教授、曾田豊二先生のご遺産をもとに、2017年(平成29年)6月16日に耳鼻咽喉科及び関連分野の医療・学術の発展を目指すことを目的とした「一般財団法人曾田豊二記念財団」が設立された。本財団の特徴としては、耳鼻咽喉科の医学的分野だけではなく、それに関連する工学分野や

教育分野、および曾田先生に関する資料の保存・解析・展示などの助成も対象としている。2018年(平成30年)度より事業目的である研究者の奨学金(同年度選考1件)、研究助成(同8件)、事業助成(同5件)を行う活動を開始し、選考した。今後の研究に役立てていただければ幸いです。

元福大病院長・日本耳鼻咽喉科学会理事長 曾田豊二は1925年(大正14年)生まれ。父は九州帝国医科大学を1913年(大正2年)に卒業。小倉市(現北九州市小倉北区)で耳鼻科医院を開業していた共助。豊二は旧制福岡高等学校、九州大学医学部を卒業した後、父と同じく耳鼻咽喉科の道歩んだ。

1964年(昭和39年)に九州大学耳鼻咽喉科助教授に就任し、1972年(昭和47年)に福岡大学医学部耳鼻咽喉科の初代教授として赴任した。耳鼻咽喉科専門医の育成と学問・研究の推進を行う日本耳鼻咽喉科学会の理事長や、耳

鼻咽喉科学及び関連分野に関する研究の国際的推進を図る公益財団法人国際耳鼻咽喉科学振興会の理事長などを歴任し、耳鼻咽喉科領域の学界において多大な貢献をし、2017年(平成29年)1月、満92歳の生涯の幕を閉じた。

学教授は「曾田先生は日本の耳鼻咽喉科という分野で大きな役割を行われました。日本耳鼻咽喉科学会理事長を2期4年間され、休眠状態であった国際耳鼻咽喉科学振興会理事長も務められ、活性化された。医師としては常日頃から「患者さんの身になって治療を行うように」と言われており、福岡大学病院耳鼻咽喉科の部長として頭頸部癌の治療を行った患者さんに対して『腫瘍会』という親睦会を数十年にわたって毎年行われ、患者さんに非常に喜んでいただきましたと懐かしむ。

## 後継者の胸に引き継がれた夢、誓い

九大から長く海外の大学に出たが、曾田に誘われて福岡大学筑紫病院院長・耳鼻咽喉科教授となった森園哲夫・西福岡病院理事長は「曾田先生は向学心、好奇心が強い方で、医学だけでなく、自然科学、文学、社会科学など各方面にわたって造詣が深く、博識さは円満なご人格と相まって、弟子にとっ

ては敬愛と賛嘆の的でした。蔵書が曾田豊二文庫として開陳される運びとなり、嬉しく思っています。先生の精神的な発達の軌跡をたどり、教育者としての先生を偲びながら、蔵書の一部を実際に手に取って自由に閲覧できるのは、この上ない喜びです。皆様方もご利用下さい」と、曾田豊二文庫開設に期待を寄せる。

## 励みにする現役教授たち

若い世代の弟子、中川尚志・九大教授は「生前、福岡ならびに日本全体の医学、特に耳鼻咽喉科学の発展に寄与された曾田先生の業績ならびにご遺志を引き継ぎ、より発展させていくよう、精進いたします」と誓い、坂田俊文・福岡大学主任教授は「初めて曾田先生にお会いしたのは医学部4年生の講義でした。医学よりは哲学的なお話が多く、ただならぬオーラを感じました。耳鼻咽喉科に入学してからは、鷹揚さの中に明確なビジョンを持っておられたのが印象的でした。仕事が終わると若手医師にも積極的に声をかけられ、杯を傾けながら日常臨床や医学研究のあるべき姿を説かれていました」と後進の育成に思いを馳せる。

## 市民対象に無料「養生相談室」10年主宰 創設メンバーは名誉教授ら7人



相談に応じる。在りし日の榎健二郎(麻酔科)、利谷昭治(皮膚科)、曾田、坂本公孝(泌尿器科)、西原英徳(解剖学・耳鼻科) =左から=

九州大学から福岡大学医学部創設に馳せ参じて初代教授となった曾田たちは70歳で退職後、名誉教授仲間を中心に7人で2002年、無料健康相談「養生相談室」をスタートさせた。郷土の先覚、貝原益軒が著した「養生訓」にあやかり、市民の健康づくりに役立つというものだった。

福岡市・天神の福岡ビルにあった西福岡病院サテライト・クリニックの1室を提供してもらい、「医療行為は行わない」を基本に掲げ、予約相談に応じた。相談者を数人で囲み、耳を傾け、アドバイスした。セカンドオピニオンの役割も果たした。

相談室はその後、赤坂に会場を移し、曾田が病床に就くまで10年続いた。相談者は2011年時点で延べ548人になった。

養生相談室から生まれたのが市民公開講座「現代の養生を考える」。今永一成・福岡大学名誉教授や健康管理の専門家が講師となり、2008年から毎年1回、計4回開いた。約120人の会場はいつも満員。曾田は世話人代表として、市民に語りかけた。「私の養生十訓」を参加者から募集し、講師も披露した。曾田の2008年の「健康自訓」には病を受け止めていたかのような項目も散見される。

貝原益軒の「養生訓」上梓300年にあたる2013年には九大医学部百年記念講堂大ホールで「養生相談室10周年記念」公開講座を開いた。

## 「健康自訓」曾田豊二 2008年

- 悠々自在、自然体で日々を過ごしたい。
- よい気分、元気感を掴まえて、楽しむ心を日々持って過したい。
- つねに要心の心掛け。
- 無理を禁ずる心掛け。
- 病いを謙んでもあわてまい。(なるようになってゆく。悪くはなるまいと思って過したい)
- 病いを楽しもう。一病息災、多病も息災。
- 食けてなるかと思ひ、やる気、元気、活気をもとう。(やはり、頑張る気持ちを持ち続けよう)
- 病中開あれば亦楽し、食も酒もほどほどに。
- 医師とは仲良く、早く見つければ早く治るは鉄則と知れ。
- 日々、終りよければ、またよし。

## 曾田豊二文庫 無料公開

所在地/福岡市西区生の松原3-18-13  
開館日・時間/水曜～日曜 午前10時～午後3時  
休館日/月・火曜  
TEL 092-260-1860  
(交通アクセス)  
●JR筑肥線下山門駅からタクシーで約5分、徒歩で約20分  
●地下鉄姪浜駅からタクシーで約10分  
●天神から(旧道202号線を通って)車で約30分  
●拾六町IC出口から車で約5分

